

初期日蓮教団の門下群像(1)

小林 正 博

はじめに

日蓮宗各派において、中世・近世を通し、さまざまな宗学が主張され、宗史が刻まれてきたが、そのほとんどは、当時の政治的、社会的、宗教的背景に強い影響を受けながら形成されており、そのぶん祖師日蓮の思想と事跡をないがしろにする結果につながっていったきらいがある。特に日蓮宗他派との違いを鮮明にしようと打ち出した独善的な宗学や、他寺との違いを強調して潤色を施して創作した寺縁起などは、現代に生きる日蓮門下を混乱におとしめているといっても過言ではない。だからこそ、立ち帰るべき真の祖師日蓮の宗義と事跡の究明は急がなければならない。

筆者はこれまで御書の文献学的基礎研究を進めてきた。それは、思想としての宗学と歴史としての宗史を考察する上での前提となる祖書学の研究領域に入る。祖書学は真実を明確にするという静的、客観的な学問研究にとどまるだけではない。日蓮仏法を現代にどう表現し展開していくかという、動的、実践的な応用面にも活用されるべき重要な使命も担っているのである。真実像に迫る研究作業の一環として始めた御書の文献学的基礎研究は、膨大な史料を相手にしつつ、はてしなく続くが、研究所のプロジェクト活動とも連携して、現代に生かせる成果を着実に提示していきたい。

【門下名基本データ】

本稿は、初期の日蓮教団門下の実態を把握することに目標をおいている。

そのために、伝えられるすべての御書(疑書、偽書、真偽未決書を含む)と現

(2)

存する本尊を対象として、それらに記載される弟子檀越を抜き出し、あいうえお順に並べ変えた基本データを最初に掲載する。

基本データの見方は以下の凡例の通りである。

1. 各データ冒頭の真・曾・写・他・興・無印・●のマークについて

文献学的な信頼度の高低を表す一応の目安になるものとして付した。

- 真 : 真蹟 (御書と本尊) に記された門下名
 曾 : 曾存であることが確実な御書に記された門下名
 写 : 直弟子・孫弟子の写本が現存する御書に記された門下名
 他 : 門下名の箇所は真蹟ではないが、他の部分は真蹟現存の御書
 興 : 日蓮入滅直後の日興の真筆に記された門下名
 無印 : 上記以外の御書に記された門下名
 ● : 偽書あるいは疑書とされている御書に記された門下名

2. 4桁の数字について

0033から1600までは創価学会版の「日蓮大聖人御書全集」の頁

御書と真蹟の表現が違う場合は真蹟の表現を優先し御書の表現は

() 内に示した。

7502から8204までは真蹟本尊の図顕年月を示す。

例) 7502は1275年2月に図顕された本尊であることを示している。

定○○○○は「昭和定本日蓮聖人遺文」の頁数を示す。

定0015から定1933までは第1巻と第2巻の正編に所収

定2042から定2185までは第3巻の続編に所収。偽書・疑書の類

定2482から定2540までは第3巻の真蹟の断簡類

定2873から定3032までは第4巻の真蹟現存の新加分

歴○○○○は大石寺版の「歴代法主全書」の頁数を示す

歴0080から歴0085までは日興筆の「宗祖御遷化記録」の頁数

歴0086から歴0087までは日興筆の「墓所可守番帳事」の頁数

3. 弟子と檀越の区分基準

沙門、僧、法師は弟子。沙弥、上人は檀越とした。

初期日蓮教団の門下群像(1)

(3)

基本データ	阿仏房上人	1305,男
真,故阿仏	1332,男	
真,故阿仏房	1319,男	
真,故阿仏房	1320,男	
真,3【尼御前】〈?〉	定1746,女	
真,4【俗安妙】	8201,男	
池上関係		
真,5【えもんのたいう】〈兄〉	1089,男	
衛門の大夫	1106,男	
他,えもんのたいう	1151,男	
真,えもんのたいう	1225,男	
真,えもんのたいう	定1507,男	
興,衛門大夫	歴0082,男	
右衛門太夫	1102,男	
興,衛門大夫宗仲	歴0080,男	
真,えもんのたいうの志	1091,男	
真,えもんの大夫志	1099,男	
真,えもんのたいうの志	1101,男	
真,えもんの大夫志	定1507,男	
真,えもんの志	1090,男	
真,大夫	1101,男	
真,たいうの志	1091,男	
真,大夫志	1086,男	
他,大夫志	1095,男	
他,大夫志	1100,男	
他,大夫志	1104,男	
大夫志	1105,男	
大夫志	1107,男	
他,6【左衛門の大夫】〈池上父〉	1095,男	
真,さえもんの大夫〈池上父〉	1091,男	
えもんのたいうのをや	1175,男	
真,7【ひやうへの志】	1086,男	
ひやうへの志	1108,男	
真,ひやうへの志	1090,男	
他,兵衛の志	1096,男	
真,兵衛志	1090,男	

檀越編

真,1【秋元太郎兵衛尉】

秋元

秋元

秋元太郎兵衛

真,2【阿仏房】

阿仏上人

真,阿仏上人

阿仏房

真,阿仏房

真,阿仏房

阿仏房

●,阿仏房

真,阿仏房

(4)

真,兵衛志	, 1093,男,	真,こうへの	, 1554,男,
真,兵衛志	, 1097,男,	他,故上野	, 1553,男,
真,兵衛志	, 1099,男,	故上野	, 1563,男,
真,兵衛志	, 1104,男,	真,故上野	, 1587,男,
兵衛志	, 1107,男,	真,故なんどう	, 1510,男,
興,兵衛志	, 歴0084,男,	他,故南条	, 1570,男,
真,兵衛志	, 定1505,男,	真,22【上野尼御前】〈時光母〉	, 1576,女,
●,兵衛志	, 定2047,男,	真,上野殿母御前	, 1584,女,
●,池上右衛門大夫宗長	, 定1932,男,	上野殿後家尼御前	, 1506,女,
真,8【兵衛志殿女房】	, 1108,女,	真,上野殿母尼御前	, 1515,女,
真,御前〈兵衛志〉	, 1090,女,	真,上野殿母尼御前	, 1573,女,
他,兵衛志殿の女房	, 1089,女,	真,上野尼ごぜん	, 1582,女,
兵衛志殿女房	, 1094,女,	他,尼御前〈南条〉	, 1580,女,
兵衛志殿女房	, 1097,女,	他,尼御前〈南条〉	, 1582,女,
真,ごぜん〈兵衛志〉	, 1090,女,	真,母尼ごぜん〈南条〉	, 1515,女,
尼御前〈兵衛志〉	, 1094,女,	他,23【時光】	, 1540,男,
他,9【太夫志殿の女房】	, 1089,女,	曾,うへの	, 1542,男,
(以上池上)		真,うへの	, 1554,男,
写,10【石河の兵衛入道】	, 1545,男,	写,時光	, 1550,男,
写,11【ひめ御前】〈石河娘〉	, 1545,女,	真,上のがうす	, 定1622,男,
,12【いざはの入道】	, 0961,男,	上野	, 1504,男,
真,13【泉】	, 定2983,男,	写,上野	, 1512,男,
真,14【さわの入道】〈一谷〉	, 1314,男,	他,上野	, 1512,男,
一谷の入道	, 1308,男,	上野	, 1513,男,
他,15【一谷入道女房】	, 1330,女,	上野	, 1528,男,
真,16【優婆塞一妙】	, 8112,女,	他,上野	, 1540,男,
他,17【伊東の八郎ざゑもん】	, 1225,男,	写,上野	, 1546,男,
●,伊東八郎左衛門	, 定2160,男,	写,上野	, 1550,男,
●,伊東八郎左衛門尉	, 定1927,男,	上野	, 1551,男,
興,伊東八郎左衛門尉	, 歴0080,男,	写,上野	, 1552,男,
真,18【稲河入道】	, 定2960,男,	真,上野	, 1555,男,
真,19【女房】〈稲河入道〉	, 定2960,女,	上野	, 1558,男,
,20【石本日仲聖人】	, 1454,男,	写,上野	, 1559,男,
〈上野関係〉		真,上野	, 1562,男,
真,21【故上野】〈時光父〉	, 1572,男,	上野	, 1564,男,
真,こうえの	, 1553,男,	他,上野	, 1565,男,
真,こうへの	, 1507,男,	写,上野	, 1566,男,

初期日蓮教団の門下群像(1)

(5)

真,上野	, 1567,男,	真,故)こ五郎〈南条〉	, 1583,男,
写,上野	, 1575,男,	興,25【四郎次郎】	, 歴0081,男,
写,上野	, 1577,男,	●,上野五郎左衛門	, 定2149,男,
上野	, 1579,男,	●,上野五郎左衛門尉	, 定2170,男,
上野	, 1585,男,	他,26【九郎太郎】	, 1554,男,
真,上野	, 定2489,男,	九郎太郎	, 1536,男,
真,上野賢人	, 1561,男,	,27【南条平七郎】	, 1536,男,
写,南条七郎次郎	, 1510,男,	(以上上野)	
真,平時光	, 7510,男,	真,28【右近の尉】	, 1099,男,
他,なんどうの七郎	, 1498,男,	真,29【内房】	, 1300,女,
写,なんどうの七郎次郎時光	, 定1909,男,	写,うつぶさ	, 1489,女,
写,南条	, 1530,男,	写,うつぶさの尼ごぜん	, 1487,女,
真,南条	, 1535,男,	内房	, 1420,女,
真,南条	, 1542,男,	内房女房	, 1425,女,
南条	, 1579,男,	,30【梅菊女】〈日蓮母〉	, 0878,女,
真,南条	, 定3021,男,	真,31【越州の嫡男】	, 定1889,男,
真,上野の七郎次郎	, 1586,男,	真,32【妻尼】〈越州嫡男〉	, 定1889,女,
写,南条の七郎次郎	, 1529,男,	,33【遠藤左衛門尉】	, 1336,男,
真,南条七郎	, 定2961,男,	遠藤	, 1336,男,
興,南条七郎次郎	, 歴0082,男,	左衛門〈遠藤〉	, 1336,男,
真,南条上野	, 定3032,男,	他,34【王日】	, 1263,女,
真,24【五郎】〈南条〉	, 1584,男,	真,35【大尼御前】	, 0908,女,
真,故なんどうの七らうごらう	, 1566,男,	他,大尼御前	, 0904,女,
真,故五らう〈南条〉	, 1575,男,	,36【大井莊司入道】	, 1377,男,
真,故五郎〈南条〉	, 1567,男,	真,37【十郎入道】	, 1225,男,
他,故五郎〈南条〉	, 1570,男,	曾,十郎入道	, 0915,男,
他,故五郎〈南条〉	, 1572,男,	大蔵たうのつじ十郎入道	, 0956,男,
真,故五郎〈南条〉	, 1573,男,	真,38【大田左衛門尉】	, 1001,男,
真,故五郎〈南条〉	, 1575,男,	真,乘明上人	, 定1652,男,
真,故五郎〈南条〉	, 1576,男,	真,乘明聖人	, 1012,男,
写,故五郎〈南条〉	, 1577,男,	太田左衛門尉	, 1017,男,
他,故五郎〈南条〉	, 1582,男,	真,太田入道	, 0995,男,
故五郎〈南条〉	, 1585,男,	他,太田入道	, 1012,男,
他,故七郎五郎〈南条〉	, 1570,男,	真,大(太)田入道	, 1020,男,
他,故南条五郎	, 1569,男,	真,大田入道	, 1040,男,
他,南条故七郎五郎	, 1568,男,	●,大田入道	, 定2110,男,
真,南条七郎五郎	, 1567,男,	真,太(大)田	, 0255,男,

(6)

真,大田, 定1119,男, 写,くほの尼, 1479,女,
 大田金吾, 1023,男, 他,くほの尼御前, 1482,女,
 真,大田金吾入道, 1005,男, 写,くほの尼御前, 1483,女,
 興,大田左衛門入道, 歴0082,男, 写,くほの尼御前, 1485,女,
 興,大田三郎左衛門尉, 歴0084,男, 写,くほの尼御前, 1486,女,
 真,39【大(太)田殿女房】, 1008,女, 他,58【故入道】〈窪尼〉, 1481,男,
 大田入道殿女房, 1014,女, 他,59【ひめ御前】〈窪尼〉, 1481,女,
 大田入道殿女房, 1018,女, 真,60【こう入道】, 1314,男,
 真,40【次郎入道】〈大田〉, 定1119,男, 真,こう(の)入道, 1323,男,
 41【大田方の人人】, 0989,男, 真,入道〈国府〉, 1323,男,
 真,42【大田親昌】, 1190,男, 真,入道〈国府〉, 1325,男,
 真,43【をとごぜん】, 1223,女, 真,61【こうの尼御前】, 1325,女,
 乙御前, 1222,女, 真,こう入道殿のごぜん, 1318,女,
 真,を(と)ごぜん(の尼), 1223,女, 真,入道殿尼御前〈国府〉, 1323,女,
 真,44【をとごぜんのはは】, 1222,女, 真,尼ごぜん〈こう〉, 1325,女,
 真,をとごぜんのはは, 1223,女, 真,62【光日尼ごぜん】, 0934,女,
 45【おはりの次郎兵衛】, 1406,男, 曾,光日上人, 0934,女,
 尾張の次郎兵衛尉, 1418,男, 曾,光日尼御前, 0933,女,
 46【尾張刑部左衛門尉殿女房】, 1401,女, 興,63【源内三郎】〈御所御中間〉, 歴0082,男,
 1492,女, 真,64【御所】, 1599,男,
 真,47【をもんすどのの女房】, 1492,女, 真,御所, 定3023,男,
 真,48【かしまの大田次郎兵衛】, 0981,男, 曾,御所, 1210,男,
 真,49【金原法橋御房】, 1001,男, 真,御所, 定2540,男,
 興,48【亀王童】, 歴0084,男, 曾,鎌倉宮御所大工左衛門宗親, 定2090,男,
 真,50【亀姫】, 7608,女, 真,65【俗近吉】, 8110,男,
 真,51【亀若】, 7608,男, 曾,66【さう四郎】, 1182,男,
 真,52【かわい】, 定3022,男, 真,67【さゑもん】〈?〉, 定2940,男,
 真,53【河野辺】, 0965,男, 真,68【さかべの入道】, 0961,男,
 かはのべ, 0961,男, 真,69【さじきの女房】, 1232,女,
 他,かわのべ, 1225,男, 曾,さじきの尼御前, 0956,女,
 河野辺の入道, 1228,男, 他,さじき女房, 1231,女,
 写,54【紀次郎男】, 0852,男, 真,さじき妙一尼御前, 定0722,女,
 55【橋三郎】, 1530,男, 真,妙一比丘尼〈さじき〉, 定0722,女,
 56【工藤左近尉】, 0939,男, 他,70【兵衛のさゑもん】〈さじき〉, 1231,男,
 真,57【くほの尼ごぜん】, 定2530,女, 真,71【さだしげ】, 1285,男,
 他,窪尼, 1478,女,

初期日蓮教団の門下群像(1)

(7)

曾,72【三郎兵衛尉】, 1375,男, 他,四条金吾, 1164,男,
 写,73【しいぢの四郎】, 0995,男, 曾,四条金吾, 1169,男,
 しみぢの四郎, 1195,男, 四条金吾, 1170,男,
 興,椎地四郎, 歴0084,男, 曾,四条金吾, 1182,男,
 椎地四郎, 1449,男, 四条金吾, 1184,男,
 真,74【比丘尼持圓】, 8104,女, 四条金吾, 1193,男,
 真,75【尼持淳】, 8104,女, 四条金吾, 1449,男,
 四条関係, 四条左衛門, 1186,男,
 真,76【四条三郎左衛門尉】, 0962,男, 興,四条左衛門尉, 歴0082,男,
 真,さ(ゑ)もん〈四条〉, 1135,男, 曾,四条左衛門尉, 定1928,男,
 曾,さえもんのじょう〈四条〉, 0914,男, 曾,四条左衛門尉, 1174,男,
 真,さぶろうざへもん〈四条〉, 1191,男, 写,四条三郎左衛門尉, 1123,男,
 真,さぶろうざゑもん〈四条〉, 1225,男, 真,四条三郎左衛門尉, 定1889,男,
 真,さへもん〈四条〉, 0995,男, 写,四条中務尉頼基, 1162,男,
 真,さゑもん〈四条〉, 1097,男, 写,四条中務三郎左衛門, 1194,男,
 他,左衛門〈四条〉, 1135,男, 四条中務三郎左衛門尉, 1139,男,
 曾,左衛門〈四条〉, 1138,男, 中務のさえもんのじやう, 1175,男,
 曾,左衛門の尉〈四条〉, 1173,男, 中務左衛門尉, 1177,男,
 真,左衛門尉〈四条〉, 0995,男, 真,中務左衛門尉, 1179,男,
 左衛門尉〈四条〉, 1133,男, 曾,中務三郎左衛門尉, 0913,男,
 真,左衛門尉〈四条か〉, 定2508,男, 曾,中務三郎左衛門尉, 0919,男,
 三郎左衛門〈四条〉, 0956,男, 真,中務三郎左衛門尉, 0985,男,
 真,三郎左衛門の尉〈四条〉, 0965,男, 曾,中務三郎左衛門尉, 1173,男,
 真,三郎左衛門尉〈四条〉, 定1889,男, 写,頼基, 1153,男,
 真,三郎左衛門尉〈四条〉, 1224,男, 写,頼基, 1157,男,
 真,三郎左衛門尉〈四条〉, 0965,男, 写,頼基, 1160,男,
 四条金吾, 1110,男, 写,頼基, 1161,男,
 四条金吾, 1113,男, 写,頼基, 1162,男,
 四条金吾, 1118,男, 他,頼基, 1164,男,
 四条金吾, 1123,男, 曾,頼基, 1180,男,
 四条金吾, 1132,男, 他,77【四条金吾殿女房】, 1135,女,
 四条金吾, 1136,男, 四条金吾殿女房, 1109,女,
 曾,四条金吾, 1139,男, 四条金吾殿女房, 1115,女,
 四条金吾, 1143,男, 四条金吾殿女房, 1197,女,
 他,四条金吾, 1148,男, 曾,日眼女, 1187,女,
 四条金吾, 1150,男, 曾,日眼女, 1188,女,
 真,日眼女, 8002,女,

曾, 78.79.80【左衛門尉兄弟四人】	他, 曾谷入道	1024, 男,
0913, 男,	他, 法蓮上人	1045, 男,
81【経王御前】	他, 法蓮上人	1047, 男,
経王御前	●, 曾谷	定2110, 男,
82【月満御前】	写, 曾谷二郎入道	1069, 男,
83【四条金吾殿の母】	曾谷次郎入道	1059, 男,
妙法〈四条金吾母〉	曾谷入道	1025, 男,
84【四郎】〈四条〉	真, 蘇谷入道	1001, 男,
(以上四条)	99【曾谷道宗】	1065, 男,
真, 85【治部殿うばごぜん】	真, 100【大学三郎】	1205, 男,
他, 86【下山兵庫五郎】	他, だいがく	1151, 男,
真, 87【俗守綱】	他, だいがくの三郎	1164, 男,
真, 藤九郎守綱〈阿仏房長男〉	興, 大学三郎	歴0082, 男,
真, 88【俗守常】	101【大学三郎殿御内】	1203, 女,
写, 89【浄蓮上人】	興, 102【大学亮】	歴0082, 男,
興, 90【二郎三郎】	他, 103【高橋六郎兵衛入道】	1463, 男,
91【次郎兵衛】	真, 故六郎入道〈高橋〉	1467, 男,
写, 92【四郎男】	他, 高橋入道	1458, 男,
真, 93【俗真永】	写, 入道〈高橋〉	1457, 男,
真, 94【俗真広】	104【六郎次郎】〈高橋か〉	1464, 男,
真, 95【俗資光】	他, 105【たきの太郎】	1164, 男,
真, 96【是日尼】	他, たきの太郎	1164, 男,
真, 尼ぎみ〈是日〉	興, 106【瀧王童】	歴0084, 男,
真, 尼是日	107【太郎大夫】	1530, 男,
真, 97【千日尼】	108【大夫次郎】	0973, 男,
真, 阿仏房尼御前	真, 109【俗藤三郎日金】	8204, 男,
真, 阿仏御房の尼ごぜん	110【藤四郎殿の女房】	1114, 女,
阿仏房尼御前	藤四郎殿女房	1515, 女,
真, 故阿仏房尼御前	●, 道性〈陰陽師〉	定2148, 男,
千日尼御前	真, 111【優婆塞藤太夫日長】	7811, 男,
尼御前〈千日尼〉	曾, 112【とうひやうえ】	1375, 男,
真, 尼御前〈千日尼〉	真, 東ひやう衛尉	定2937, 男,
真, 98【曾谷入道】	113【道妙禅門】	1242, 男,
教信の御房	真, 114【富木】	0035, 男,
真, 教信御房	真, 富木	0255, 男,
曾谷	富木	0949, 男,
曾谷	曾, 富木	0950, 男,

富木	0956, 男,	富木入道	0956, 男,
真, 富木	0965, 男,	真, 富木入道	0978, 男,
真, 富木	0968, 男,	真, 富木入道	0995, 男,
真, 富木	0970, 男,	真, 富木入道	定2485, 男,
富木	0973, 男,	真, 富木入道	定3028, 男,
真, 富木	0978, 男,	真, 115【富城殿女房尼御前】	0990, 女,
真, 富木	0984, 男,	真, 尼ごぜん〈富木〉	0975, 女,
真, 富木	0986, 男,	真, 尼ごぜん〈富木〉	0976, 女,
富木	0989, 男,	真, 尼ごぜん〈富木〉	0978, 女,
真, 富木	0992, 男,	真, 尼ごぜん〈富木〉	0986, 女,
真, 富木	定0818, 男,	真, 尼ごぜん〈富木〉	定0818, 女,
●, 富木	定2042, 男,	真, 尼御前〈富木〉	0987, 女,
●, 富木	定2045, 男,	(以上富木)	
●, 富木	定2110, 男,	116【入道】〈富木家の人〉	0955, 男,
真, 富木	定3032, 男,	117【得行寺】	0961, 男,
真, 富城	0987, 男,	興, 118【富田四郎太郎】	歴0082, 男,
興, 富木五郎入道	歴0082, 男,	真, 119【内記左近入道】	定1907, 男,
真, とき	0035, 男,	120【中興の次郎入道】	1333, 男,
真, とき	0964, 男,	故次郎入道〈中興〉	1334, 男,
真, とき	0975, 男,	真, 121【なかをきの政所女房】	定1301, 男,
真, とき	0995, 男,	中興入道殿女房	1335, 女,
他, とき	1164, 男,	122【むすめの御前】〈中興〉	1334, 女,
真, とき	1179, 男,	真, 御ぜん〈なかをき〉	定1301, 女,
真, 常忍	定0015, 男,	真, 123【長崎次郎兵衛の尉時綱】	1190, 男,
真, 常忍	0977, 男,	真, 124【なごえの尼】	1539, 女,
真, 土木	0980, 男,	真, なごへの尼	1191, 女,
真, 土木	0139, 男,	曾, 名越	1137, 女,
真, 土木	0142, 男,	他, 125【新尼御前】	0907, 女,
真, 土木	0949, 男,	他, 尼御前〈新尼〉	0907, 女,
真, 土木	0951, 男,	126【新池】	1438, 男,
真, 土木	0954, 男,	新池	1444, 男,
真, 土木	0962, 男,	曾, 127【新田殿】	1452, 男,
真, 土木	0963, 男,	他, にいた	1540, 男,
真, 土木	0964, 男,	曾, 128【新田殿女房】	1452, 女,
真, 土木入道	0178, 男,		
写, 富城入道	0995, 男,		
真, 富城入道	定1746, 男,		

真,129【にしまの入道】	, 1510,男	真,151【比丘尼日符】	, 7906,女,
真,西山	, 1472,男	●,仲三〈貫名〉	,定2045,男,
真,西山	, 1473,男	曾,152【波木井】	, 1376,男,
真,西山	, 1474,男	他,はきり	, 1151,男,
曾,西山	, 1477,男	●,実長	,定1931,男,
真,西山	, 1476,男	●,波木井	,定1931,男,
真,西山	,定1291,男	●,波木井	,定1932,男,
真,西山	,定2927,男	●,波木井	,定1933,男,
真,130【優婆塞日安】	, 7911,男	●,波木井	,定2171,男,
真,優婆塞日安	, 8002,男	真,俗日円	, 8006,男,
真,131【日安女】	, 8003,女	興,南部六郎入道	,歴0080,男,
真,132【俗日肝】	, 8006,男	●,南部六郎	, 1374,男,
真,133【日仰優婆塞】	, 7909,男	曾,南部六郎	, 1375,男,
真,134【尼日巖】	, 8004,女	●,南部六郎恒長	, 1369,男,
真,日巖尼御前	, 1262,女	写,南部六郎三郎	, 1373,男,
真,135【俗日重】	, 8008,男	曾,153【次郎】〈南部〉	, 1375,男,
真,136【俗日常】	, 8109,男	写,154【日若御前】	, 1566,男,
真,137【日住禪門】	,定1743,男	真,155【ふしらうめ】	, 1212,男,
真,138【尼日実】	, 8004,女	真,156【藤河入道】	, 0139,男,
真,139【俗日大】	, 8103,男	真,157【藤原清正】	, 8002,男,
真,140【優婆塞日田】	, 7904,男	真,158【俗藤原国貞法名日十】	, 8006,男,
真,141【日女御前】	, 1250,女	真,159【優婆塞藤原日生】	, 8102,男,
他,日女御前	, 1249,女	真,160【優婆塞藤原広宗】	, 8004,男,
真,日女御前	, 1245,女	真,161【ふなもりの弥三郎】	, 1445,男,
真,142【日仏】	, 8001,男	●,船守弥三郎	, 1446,男,
真,143【日妙】	, 8004,女	●,弥三郎〈船守〉	, 1445,男,
他,日妙聖人	, 1217,女	真,162【女房〈船守〉】	, 1445,女,
真,144【俗日目】	, 8009,男	●,平内左衛門	,定2103,男,
真,145【俗日頼】	, 8002,男	真,163【星名五郎太郎】	, 1210,男,
真,146【優婆塞日久】	, 7911,男	曾,164【本間の六郎左衛門】	, 0914,男,
真,147【弁殿尼御前】〈日昭母〉	, 1224,女	真,依智六郎左衛門尉	, 0967,男,
真,尼ござん〈弁〉	, 1224,女	真,えちの六郎左衛門尉	, 0951,男,
真,148【俗日専】	, 8201,男	●,依智の三郎左衛門	,定2161,男,
真,優婆塞日専	, 7804,男	●,依智の三郎左衛門	,定2162,男,
真,149【日頂上人】	, 7808,男	●,越智の三郎左衛門	,定2161,男,
真,150【沙弥日徳】	, 7910,男	曾,重連	, 0918,男,

●,本間の六郎左衛門	,定1928,男	真,176【妙心】	, 7902,女,
●,本間六郎左衛門	,定1928,男	曾,妙心尼	, 1480,女,
曾,六郎左衛門〈本間〉	, 0914,男	写,妙心尼御前	, 1477,女,
曾,六郎左衛門〈本間〉	, 0916,男	写,妙心尼御前	, 1483,女,
曾,六郎左衛門〈本間〉	, 0918,男	曾,177【入道】〈妙心尼の夫〉	, 1480,男,
曾,六郎左衛門尉〈本間〉	, 0917,男	他,178【妙法尼御前】	, 1405,女,
曾,六郎左衛門尉〈本間〉	, 0918,男	真,妙法尼	, 1390,女,
曾,六郎左衛門尉〈本間〉	, 0919,男	真,妙法尼御前	, 1403,女,
他,165【故松野六郎左衛門入道】	, 1580,男	真,妙法尼御前	, 1419,女,
●,松野	, 1338,男	真,妙法尼御前	, 1420,女,
他,松野	, 1380,男	真,179【妙密上人】	, 1242,男,
●,松野	, 1387,男	曾,180【むまの入道】	, 1375,男,
他,松野	, 1390,男	曾,181【もばら】	, 1376,男,
●,松野	, 1467,男	真,182【弥源太】〈北条〉	, 1227,男,
他,入道〈松野〉	, 1582,男	真,いやげんた入道	, 1286,男,
真,166【松(の)尼御前】	, 1396,女	真,弥源太入道	, 0173,男,
●,松野後家尼御前	,定2129,女	真,弥源太入道	, 1229,男,
●,松野後家尼御前	, 1393,女	真,弥源太入道	, 1230,男,
他,松野殿女房	, 1394,女	真,弥源太〈北条〉	, 0172,男,
●,松野殿女房	, 1395,女	真,弥源太〈北条〉	, 0177,男,
真,167【摩尼女】	, 8108,女	真,183【弥三郎】	, 1451,男,
真,168【三国の太夫】〈日蓮父〉	, 0878,男	曾,184【故弥四郎】〈光日房子〉	, 0933,男,
真,169【みさわ】	, 1491,男	他,いや四郎〈光日房の子〉	, 0928,男,
真,170【三嶋の左衛門次郎】	,定1896,男	他,故弥四郎〈光日房の子〉	, 0931,男,
真,171【優婆塞源日教】	, 8009,男	真,故弥四郎〈光日房の子〉	, 1290,男,
写,故入道〈妙心尼〉	, 1482,男	写,185【弥四郎坊男】	, 0853,男,
写,故入道〈妙心尼〉	, 1483,男	真,186【宿屋入道】	,定0421,男,
曾,入道〈妙心尼〉	, 1479,男	他,宿の入道	, 1329,男,
真,172【妙一女】	, 1260,女	真,屋戸野入道	, 0033,男,
真,妙一女	, 1262,女	真,屋戸野入道	,定2482,男,
真,173【妙一尼】	, 1252,女	●,宿屋の禪門	,定1926,男,
真,妙一尼	, 1254,女	真,宿屋の入道	, 1129,男,
真,妙一尼御前	, 1255,女	写,宿屋左衛門入道	, 0169,男,
真,174【妙巖】	,定1743,男	真,宿屋禪門	, 0033,男,
真,175【沙弥妙識】	, 8003,男	真,宿屋入道	, 0173,男,
		真,宿屋入道	, 0177,男,

- ,宿屋入道,定2160,男,
真,宿谷の入道,0287,男,
宿谷入道,0170,男,
宿谷入道,0171,男,
真,谷土野禅門,定2516,男,
真,野戸野入道,定2527,男,
187【山城】,0961,男,
真,188【俗吉清】,8002,男,
曾,189【領家】,0894,女,
他,領家,0906,女,
曾,領家の尼御前,0891,女,
曾,領家の尼御前,0895,女,
真,190【伊賀公】,0894,女,
他,伊賀公,0906,女,
曾,伊賀公,0891,女,
曾,伊賀公,0895,女,
真,191【和泉公】,0894,女,
他,和泉公,0906,女,
曾,和泉公,0891,女,
曾,和泉公,0895,女,
真,192【越前公】,0894,女,
他,越前公,0906,女,
曾,越前公,0891,女,
曾,越前公,0895,女,
真,193【円教房】,1175,
真,6【かくしやう(覚性)房】,定1177,
真,覚(玄)性御房,1286,
他,覚(玄)性房,1285,
真,覚性御房,定2873,
他,7【覚乗房】,1463,
真,8【学乗房】,1314,
真,学乗房,1315,
他,学乗房,1330,
曾,9【義城房】,0893,
写,義城房,0373,
義浄房,0890,
義浄房,0893,
義浄房,0901,
他,義成房,0329,
義成房,0330,
●,刑部房,定2171,
●,刑部房,定2174,
真,10【経一丸】,7512,
曾,11【熊王】,0913,
●,熊王丸,定1928,
12【賢秀】,0848,
賢秀,0849,
写,13【最蓮房】,0535,
●,最蓮御房,定2174,

【弟子編】

- 最蓮房,0519,
最蓮房,1339,
最蓮房,1343,
写,最蓮房,1357,
最蓮房,1362,
最蓮房,1368,
最蓮房上人,1338,
日浄,定0629,
真,14【三伊房】,1599,
真,15【三位】,1224,
写,三位,1155,
写,三位,1156,
真,三位,1225,
三位阿闍梨御房,1283,
写,三位公,1153,
他,三位房,0931,
写,三位房,1155,
他,三位房,1164,
曾,三位房,1182,
真,三位房,1191,
三位房,1383,
三位房,1464,
16【侍従】,定0056,
興,17【信乃公】,歴0083,
真,18【治部房】,1430,
興,治部公,歴0082,
興,治部公,歴0087,
治部房,1426,
治部房,1467,
19【寂日房】,0903,
興,寂日房,歴0087,
曾,20【浄円房】,0894,
浄円房,0104,
21【承賢】,0848,
承賢,0849,
曾,22【浄願の御房】,0893,
浄願房,0890,
浄願房,0901,
他,浄願房,0329,
清澄御房〈浄願房か〉,0330,
真,23【少輔房】,定0438,
曾,少輔房,0912,
せうほう,1555,
せうほう,1557,
真,せう房,1191,
他,せう房,1225,
真,せう房,1268,
真,せう房,1539,
●,伊和瀬の少輔房,定2160,
真,24【せうどの】〈?〉,1212,
曾,25【聖密房】,0900,
曾,聖密房,0901,
真,26【盲目乗蓮】,8004,
真,27【新仏】,定0016,
曾,28【すけあさり御房】,0895,
他,助阿闍梨,0907,
興,29【摂津公】,歴0083,
興,30【大夫公】,歴0084,
真,31【大進阿闍梨房】,0964,
真,故大進阿闍梨,1101,
曾,大進の阿闍梨,0950,
真,大進の阿闍梨,1225,
真,大進の阿闍梨,定0756,
曾,大進阿闍梨,1182,
真,大進阿闍梨,1212,
写,大進阿闍梨,1369,
真,大進阿闍梨,1467,
真,大進阿闍梨御房,1224,
真,大進房,0981,
真,大進房,0982,
真,大進房,1190,
写,大進房,1455,
写,大進房,1456,
真,32【大にのあざり】,定1505,

真,33【たきわう】	, 1225,	真,47【越後房日弁】	, 0849,
真,滝王丸	, 定0722,	真,えち後房	, 0990,
興,34【但馬公】	, 歴0083,	興,越後公	, 歴0086,
興,但馬公	, 歴0087,	真,越後公御房	, 定2874,
真,35【たんば房】	, 1318,	写,日弁	, 0852,
興,丹波公	, 歴0084,	写,日弁	, 0853,
興,丹波公	, 歴0087,	写,日弁	, 1456,
興,36【筑前公】	, 歴0084,	真,比丘日弁	, 7904,
興,筑前公	, 歴0087,	興,48【卿公】〈日目〉	, 歴0083,
真,37【ちめう房】	, 1287,	興,卿公〈日目〉	, 歴0087,
興,38【出羽公】	, 歴0083,	真,釈子日目	, 7902,
真,39【沙門天目】	, 8204,	真,49【沙門日門】	, 7807,
真,40【日向法師】	, 7904,	真,50【釈日与】	, 7602,
曾,さど	, 0895,	真,51【ちくご房】〈日朗〉	, 1225,
真,さど房	, 1226,	真,大國阿闍梨	, 1101,
,さど房	, 1463,	興,大國阿闍梨	, 歴0083,
他,佐渡公	, 0931,	興,大國阿闍梨	, 歴0086,
興,佐土公	, 歴0087,	興,大國阿闍梨日朗	, 歴0081,
興,佐土公日向	, 歴0081,	,筑後	, 1213,
●,日向	, 定2164,	真,筑後房	, 1179,
真,41【沙門日永】	, 7911,	写,筑後房	, 1369,
他,日永	, 0364,	●,日朗	, 定2164,
,42【日行房】	, 0989,	●,日朗	, 定2185,
,43【日源】	, 1381,	真,52【沙門日華】	, 8005,
,44【日持】	, 0848,	真,53【比丘日賢】	, 7807,
,甲斐公	, 1397,	,54【日興】	, 0849,
,日持	, 0849,	写,はわき	, 1484,
●,日持	, 定2164,	,ははき	, 1530,
興,蓮花阿闍梨日持	, 歴0081,	,ははき	, 1585,
興,蓮花阿闍梨	, 歴0082,	真,はわき	, 1582,
興,蓮花阿闍梨	, 歴0086,	写,はわき	, 定1671,
写,45【少輔房日禅】	, 0852,	写,はわき公	, 定1910,
写,日禅	, 0852,	他,はわき房	, 1463,
写,日禅	, 0853,	,日興	, 0848,
真,46【そつ】〈日高〉	, 1225,	,日興	, 1600,
,帥〈日高〉	, 0973,	●,日興	, 定2164,
興,帥公	, 歴0084,	,伯耆	, 1229,

写,伯耆	, 1456,	真,58【日照】	, 7604,
真,伯耆	, 定2874,	興,59【伊与公日頂】	, 歴0081,
真,伯耆阿闍梨	, 1599,	真,いよ	, 0986,
写,伯耆房	, 1455,	真,いよ	, 0990,
他,伯耆房	, 1587,	真,いよ	, 定2929,
,白蓮阿闍梨日興	, 1600,	真,いよ房	, 0978,
興,白蓮阿闍梨日興	, 歴0081,	曾,伊よ	, 0950,
興,白蓮阿闍梨	, 歴0083,	真,伊与	, 定1889,
興,白蓮阿闍梨	, 歴0087,	興,伊与公	, 歴0086,
真,55【下野房日秀】	, 0849,	真,伊与房	, 0963,
真,しもつけ房	, 0990,	●,日頂(注2参照)	, 定2164,
興,下野公	, 歴0082,	真,60【沙門日法】	, 7907,
興,下野公	, 歴0086,	真,比丘日法	, 8011,
写,下野房	, 0852,	真,61【のと房】	, 1191,
,下野房	, 1467,	真,のと房	, 1539,
写,日秀	, 0852,	他,のと房	, 1225,
写,日秀	, 0853,	真,62【豊後房】	, 1318,
真,日秀	, 0853,	写,63【豊前公御房】	, 1454,
写,日秀	, 1456,	曾,64【別当御房】〈?〉	, 0902,
真,56【僧日春】	, 8104,	他,65【明慧房】	, 0931,
真,57【釈子日昭】	, 8011,	真,66【明性房】	, 0949,
●,日昭	, 定2164,	他,明性房	, 1225,
真,弁	, 1224,	曾,67【武蔵殿御房】	, 1289,
真,弁	, 1226,	,武蔵公御房	, 1288,
他,弁	, 1263,	真,68【大和阿闍梨】	, 0965,
真,弁	, 定0438,	真,大和阿闍梨御房	, 0965,
真,弁	, 定0722,	真,69【山伏房】	, 1318,
真,弁の阿闍梨	, 1101,	写,70【三河房頼円】	, 0852,
,弁阿闍梨	, 1136,	写,頼円	, 0853,
写,弁阿闍梨	, 1369,		
興,弁阿闍梨	, 歴0083,		
興,弁阿闍梨	, 歴0086,		
興,弁阿闍梨日昭	, 歴0081,		
,べんあさり	, 1463,		
真,べんの阿闍梨	, 1101,		
,弁公	, 1109,		
,弁公	, 1136,		

【覚え書き】

基本データをもとに、以下のテーマについて分析した結果を述べていく。

1. 六老僧のこと
2. 本尊授与書きのこと
3. 日号のこと
4. 阿闍梨号のこと

1. 六老僧のこと

ここでは六老僧に関するデータ整理を手始めに、気がついたことを述べる。

我々の常識からすれば、仮名・阿闍梨号・実名（法名）の順で六老僧を言えば、弁阿闍梨日昭・筑後阿闍梨日朗・伯耆阿闍梨日興・佐渡阿闍梨日向・伊予阿闍梨日頂・甲斐阿闍梨日持となる。ところが、これらの名称を御書や本尊の授与書きに求めてみると、現れないものがあることが判明した。

表1 六老それぞれの名称 (×は記述なし)

	生没年代	御書	御書での仮名	御書での阿闍梨号	本尊授与書き
日昭	1221-1323	×	弁	弁の阿闍梨	釈子日昭
日朗	1245-1320	×	筑後	大国阿闍梨	×
日興	1246-1333	×	伯耆	伯耆阿闍梨	×
日向	1253-1314	×	佐渡	×	日向法師
日頂	1252-1317	×	伊予	×	?
日持	1250-1295	×	甲斐	×	×

表1について若干の分析をする。御書では対外的文書である「四十九院申状」(848頁)に日興・日持がでていいる。しかし、これは日蓮文書ではないので、六老僧の日号は御書に出てこないということになる¹⁾。

仮名については、六人全員が御書に出ていいる。御書に日号がないことと合わせて考えれば、教団内部での通称としては仮名が使用されていたことを窺わせ

る。阿闍梨は日昭・日朗・日興の3人だが、日興の「宗祖御遷化記録」によれば、日興は「白蓮阿闍梨」、日持は「蓮花阿闍梨」とあり、日興が伯耆から白蓮に変わったことと、日持も日蓮在世中に阿闍梨号を授与されたことがわかる。しかし、日向と日頂は師・日蓮から阿闍梨号を授与された形跡がない。

本尊授与書きでは「釈子日昭」「日向法師」の表現の通り、日昭と日向には授与された本尊が現存する。ところが「日頂上人」(弘安元年8月の本尊)という授与書きの本尊があり(表1では?マーク)、これが六老の日頂を指すかどうか検討しておきたい。「〇〇上人」という表現は御書に多く出ており、確実に思われるものをすべて挙げれば、真「阿仏上人」二箇所、真「阿仏房上人」、真「乗明上人」、曾「光日上人」、写「浄蓮上人」、他「法蓮上人」二箇所である。つまり、上人号はすべて檀越に用いられているのである。日蓮が弟子に対して上人と称するのは相当の功績がある場合(注4参照)で、本尊授与書きに「上人」と付記するのは不自然で、「日頂上人」と六老の日頂とは別人ととらえておきたい²⁾。

次に注目すべきは、本尊の授与書きには仮名は用いられず、日号で記されていることである。以上のような分析から得られたある程度の見通しを、さらに門下全体に広げて検討していく。

2. 本尊授与書きのこと

「日蓮聖人真蹟集成」第十卷(1977年・法蔵館)の本尊集には、現存する本尊として123幅が収録されている。これに、公開されていない大石寺系の現存本尊の記録として「富士宗学要集」第8巻所収の「漫荼羅脇書等」や、昭和定本第3巻所収の中山日祐の目録と身延日乾・日亨などの曾存本尊の記録があるが、ここでは非公開あるいは曾存のため研究対象からはずす。

表2 御書(上記2つの日興文書も含む)と本尊授与書きに記される門下人数

	合計	御書	本尊	本尊にも御書にもあり
弟子	70人	58人	16人	4人

檀越 189人 = 154人 + 44人 - 9人
 計 259人 = 212人 + 60人 - 13人

現存する123幅中、明確な授与書きがあるのは、弟子が17幅(16人・日法に2幅授与)、檀越が46幅(44人・日専と日安に2幅授与)である。このうち御書にも記述される弟子は4人、檀越は9人である。具体的には、弟子では[日向法師(さと房)](前者は本尊・後者は御書での表現)[沙門日永(日永)][比丘日弁(越後房日弁)][釈子日昭(弁の阿闍梨)]の4人、檀越では[妙心(妙心尼)][俗日円(波木井実長)][日眼女(四条金吾女房)][尼日嚴(日嚴尼御前)][日妙(日妙聖人)][俗日頼(四条金吾)][平時光(南条時光)][俗守綱(藤九郎守綱)][日常(富木常忍)]の9人が挙げられる。

しかし、檀越の9人については問題点が多く、本当に9人としていいか筆者には自信がない。一人ずつ検討すれば、まず[妙心]は曾存の御書や日興写本に記されているので問題はないと思う。[俗日円]が波木井実長であるというのは、実長自身が弘安八年(日蓮滅後三年)の段階で沙弥日円と記しているから、ほぼまちがいない³⁾。「日眼女」が四条金吾女房であることについては実は明確な根拠はない。御書では「日眼女造立釈迦仏供養事」(曾存・1187頁)のみに記されているだけで、そこには四条金吾のことが全く触れられていないのである。[尼日嚴]については「日嚴尼御前御返事」にあるが、これは1580年ころの他受用御書に初めて出現する御書で確定しがたい。[日妙]は真蹟現存の「日妙聖人御書」に一箇所のみ記されているが、「日妙聖人」の部分の真蹟は存在しない。[日頼]が四条金吾であるかどうか、これも立証する確実な文献はない。[平時光]については南条時光であることは問題ないと思う。[俗守綱]については阿仏房の子に藤九郎守綱がおり、これは真蹟現存の「千日尼御返事」に記されているので同一人物であろう。最後の[日常]が富木常忍であるかどうか。確かに富木常忍は日常と称して後に自ら本尊を書いているが(永仁3年と5年いずれも現存)、実は日常の初見は永仁3年(1293年)のこの本尊であり、それ以前は自らを常忍(じょうにんと読む法名)と称し、同じ法名である日

常を用いないのは不自然である。したがって日蓮本尊授与書きの[日常]が富木常忍を指している可能性は低いといわざるを得ない。以上のように9人という数字は最大限の可能性を考慮した上での人数であることを断っておきたい。

なぜこのような不確定要素が介在するのか。それは、前述したように本尊の授与書きでの名前と御書で使用される名前が違うことに起因するからである。普通、日号は本尊授与書きでは用いられるが、御書で日号が使われる例はきわめて少ないのである。したがって日号の付く檀越がだれのことを指しているか、明確になることの方がむしろ稀なのである。

分析結果 御本尊の授与書きと御書での門下の名称は、明確に使い分けされている。そのため、御本尊の授与書きで記された日号がだれなのかを明らかにするのは困難である。

3. 日号のこと

日蓮が檀越に対して、日号を授与したことは本尊授与書きを見れば明確であるが、御書では日号で称される檀越は限られている⁴⁾。

表3 消息類で日号を使用した例

曾	日眼女	女	日意真蹟目録、日乾真蹟目録にも題号に日眼女が用いられている。
	日嚴尼	女	本満寺録外(一五八〇年)初見
真	日女御前	女	御真蹟にあり
他	日妙聖人	女	真蹟断簡 日妙の部分は真蹟なし 日祐目録での題号は「楽法凡志等」とある。
	日住禅門	男	日意録外目録(十六世紀初め)初見
	石本日仲聖人	男	大石寺に真蹟があるとされたが、写本しか残っていない。平成新編では大石寺曾存としているが、疑わしい。
写	日若御前	男	南条時光の長男への日蓮の命名

表3のように、消息類で日号が使用される確実な檀越は、日眼・日女・日妙の女性信徒と日若（ひわか）という幼児の計4例である。男性信徒への日号は御書に確実なものはないといってよい。男性信徒の名前は、御書では普通、〇〇入道とか左衛門尉・大夫志などの官職名、または富木や太田などの姓である。つまり世間的な通称をそのまま消息類で使用しているので、日号が見られないのである。本尊での授与書きでは、特に〇〇入道や官職名の表現は皆無であり、御書との著しい相違を見せている。

女性信徒への消息は、〇〇殿女房・〇〇殿母御前・〇〇尼御前・〇〇女房・〇〇御前・尼〇〇・〇〇尼などを普通使用する。これに対し、本尊の授与書きでは、消息での普通の表現を使うのは尼〇〇と〇〇尼だけなのである。

もっと細かくみれば、本尊授与書きは、基本的に法名を記すのが、日蓮の特徴である。弟子檀越計63幅中、法名ではないのは建治年間の「平時光」「亀姫」「亀若」と弘安年間では「藤原清正」「藤原広宗」の5幅でいずれも檀越への本尊である。檀越で建治年間で授与書きが記されているのは、この3幅だけで、「平時光」（南条時光）はこの時まだ17歳、「亀姫」「亀若」は子供であり法名を授かるほどの年ではない。また「藤原清正」「藤原広宗」の「清正」「広宗」は取りようによっては法名の可能性がないわけではない。とすれば、日蓮は門下へ本尊授与する際、同時に法名も授け、それを授与書きに記したと考えられるのである。本尊授与において、もう一つの重要な視点は、授与された門下がその本尊を安置する場所を確保していることが前提となっていることである。その大きさは丈、幅とも意外に大きいことがわかる。現存する123幅中、一紙の本尊は50幅（平均丈50センチ、幅30センチ）、二枚継ぎ9幅、三枚継ぎ52幅で四枚継ぎ以上が12幅である。最大なのは「優婆塞藤大夫日長」への本尊で二八枚継ぎになっており、丈244センチ、幅125センチにも及んでいるのである。だから、授与された門下にとっては、信心の誉れであると同時に、安置した本尊を中心とする新たな信仰形態の出発をも意味していたであろう。その本尊の授与書きに記された自分の法名を見ながら、決意新たに信心の持続をめざしたであろう。

以上のように、日蓮は持続した信仰に堪えうる門下の証しとして本尊を図顕し、同時に法名を授けたと考えられるのである。さて、法名の一つである日号については、檀越への本尊46幅中24幅である。弟子になると17幅中15幅なのでほとんどといってよい。ところが弟子への消息では、普通は越後房とか筑後房などの国名で書くか浄願房、義城房などの天台僧としての名前を使う。むしろ日号を使うのは破格なのである。

表4 弟子を日号で記した例

【対内的文書】	
日行房	0989「四菩薩造立抄」1461年日実「当家宗旨名目」初見
日源	1381「松野殿御返事」1580年頃の「三宝寺録外」初見 ただし「本尊問答抄」を1290年に書写した僧として日源 がいる。これと同一人物か。
写 日弁	1456「伯耆殿等御返事」
写 日秀	1459
【対外的文書】	
他 日永	0364「下山御消息」
真 越後房日弁	0849「滝泉寺申状」
真 下野房日秀	0849
写 少輔房日禅	0852

【相承書類】

白蓮阿闍梨日興	1600「身延・池上相承」
日浄	定0629「得受職人功德法門抄」 1461年日実「当家宗旨名目」に初見

表4のように、消息などの【対内的文書】で日号を使用する確実な文献は、「伯耆殿等御返事」唯一つである。奇しくも「伯耆殿等御返事」の日付は、戒壇本尊建立とされる弘安二年十月十二日であり、このころ日弁と日秀は熱原の

法難での活躍を師・日蓮より賞されている⁵⁾。「伯耆殿等御返事」はその渦中であり、対外的な内容に関わる記述もあって、日弁・日秀と記したのであろうか。「日行房」と「日源」については、日蓮文書であるとすれば、きわめて特殊な例となる。⁶⁾【対外的な文書】に日号を使うのは、むしろ自然と考えられる⁶⁾。越後房、下野房、筑後房と称するだけでは対外的には通用しないからである。

- 分析結果 1. 日蓮が授与した日号は、主に本尊の授与書きの時に使用され、消息類ではほとんど見られない。そして、日号が与えられても、手紙のやりとりや日常的に呼びあう時にも日号は使われなかったと考えられる。
2. 日蓮は持続した信仰に堪えうる門下の証しとして本尊を図顕し、同時に法名を授けたと考えられる。その法名の中で一番多いのが日号である。

4. 阿闍梨号のこと

阿闍梨は日蓮在世においては、特に修行の年功を積んだ台密僧や東密僧が得た肩書きの一つで、弟子に戒を授けることのできる資格を持っている僧のことである。御書の中でその阿闍梨号が使用されているのは以下の八例である。

大進阿闍梨 曾谷氏の縁類か 文永七年初見
 大国阿闍梨 日朗 弘安二年初見
 伯耆阿闍梨 日興 弘安年間初見
 弁阿闍梨 日昭 天台僧として阿闍梨号を有す 文永十年初見
 助阿闍梨 清澄の住僧か 文永十二年初見
 大和阿闍梨 下総方面の僧 文永十一年初見
 大にのあざり、弘安元年初見

三位阿闍梨 三位房というのが普通「教行証御書」のみに使用
 御書以外では日興上人の「宗祖御遷化記録」(弘安五年十月十六日)に

蓮花阿闍梨 日持
 白蓮阿闍梨 日興 が記載されている。

これらの阿闍梨号が、天台宗僧侶としての阿闍梨号と日蓮から授与された阿闍梨号との二種類に大別されることは、高木豊氏が指摘した通りである⁷⁾。このうち日蓮から授与された阿闍梨号は白蓮(日興)、大国(日朗)、蓮華(日持)の三人であるが、日興だけは白蓮阿闍梨の前に伯耆阿闍梨と称しており、二つの阿闍梨号を持っているかのようである。しかし、伯耆阿闍梨も白蓮阿闍梨も初見は弘安年間であり、天台僧としての伯耆阿闍梨、日蓮授与による白蓮阿闍梨と明確に立て分けられるかどうか即断はできない。ただ言えることは、伯耆は天台僧としての仮名であり、白蓮は日蓮授与の仮名である。なお、日興と阿闍梨号については次回詳しく述べる。

日持については、日興が「弟子分本尊目錄」で「年序を経て後に阿闍梨号を給ひ、六人之内に召し具せらる蓮華阿闍梨也」⁸⁾といているから、日蓮授与の最後の阿闍梨号であろう。ということは日向・日頂へは阿闍梨号を授けた形跡がない。なぜ、六老の次第中、六番目の日持(日蓮の弟子になったのは1270年)が阿闍梨号を授かり、日蓮に弟子としては先輩に当たる日向(同1265年)・日頂(同1267年)はもらえなかったのか。これはなかなか解答の得られない難問であるが、思いつくまま記しておく。

一つは年齢から考えて、日持は日頂・日向より年上であったという点である。

もう一つは、前述の「年序を経て後に阿闍梨号を給ひ……」という日興の表現が、日蓮の弟子になってからの年序ではなく、天台僧としての期間も加味したものという解釈である。日持は7歳の時、天台宗岩本実相寺で出家したとされているから1256年以降の僧歴を持っている。この年日向はまだ4歳、日頂は5歳だから、僧歴においては日持の方が長いといえる。

三番目の考え方は、六老選定の時に阿闍梨授与の儀式のようなことをやって、その時いた日持は授与され、その場にいなかった日向・日頂は授与されなかったという解釈である。日蓮の葬儀の記録である日興の「宗祖御遷化記録」を見

れば日向と日頂は参列していないことが明らかで、それを根拠とした考えである。

現時点で思いつく理由はこれくらいだが、日向・日頂に授与されなかった阿闍梨号は、選定された六老としての必要条件ではないことはいえると思う。

分析結果 1. 阿闍梨号は、天台僧としての阿闍梨号と日蓮が授与した阿闍

梨号の2種類があり、日興は両方持っていた可能性がある。

2. 日向・日頂は阿闍梨号を受けておらず、六老の選定と阿闍梨

授与との間に必然性はない。

以上、日蓮在世中の初期教団の門下群像を、日号や阿闍梨号の視点から述べてきたが、実は日興になると本尊授与の目的、檀越への日号授与のあり方、弟子への阿闍梨号の授与などにおいて、師・日蓮と大きな相違をみせるようになるのである。今回は、日興を始めとする六老と初期教団の門下群像について、論述していきたい。

注

- 1) 「身延相承書」「池上相承書」には「日興」があるが、相承書という特殊事情と、文献学的なアプローチを基本とする本稿の趣旨に沿ってここでは除く。
- 2) ただし、日頂への本尊には日興の添書があり、日頂の弟寂仙房（日澄）に付嘱する、とあるから日頂上人＝六老の日頂の可能性もある。
- 3) 「与白蓮阿闍梨御房書」日蓮宗宗学全書1巻195頁。
- 4) 「法華本門宗要抄」定2164と「日朗御讀状」定2185には、六老を日号で表現しているが、偽書としてここでは除く。
- 5) 「三師御伝土代」に「さてあつわらの法花宗二人はくひをきられおハン、その時大聖人御かんあつて日興上人と御本尊にあそはすのみならず、興の同弟子日秀・日弁二人上人かうし給、……又上人かうなし、是則日興上人の御信力の所以なり云云。（歴代法主全書1巻266頁）とある。
- 6) 「四十九院申状」に日興・日持が見られるが、これは日蓮文書ではないので除く。
- 7) 高木豊「日蓮とその門弟」54-57頁、弘文堂1965年。
- 8) 歴代法主全書1巻90頁。

（こばやし まさひろ・研究員）